

本市の学校教育・生涯学習の取組について

(1) 新学習指導要領の全面実施について

- ① 2学期制の実施について
- ② 小学校外国語（英語）の教科化について
- ③ 小・中学校特別の教科道徳について
- ④ プログラミング教育について

2学期制の実施について

令和3年度からの中学校における新学習指導要領の全面実施（小学校は令和2年度から）に伴う新しい教育課程の編成実施にあたり、改訂の趣旨を十分に生かすため、これまでの3学期制を見直し2学期制を取り入れる。2学期制にすることで、次のような良さがあると考えられる。

参考：3学期制と2学期制の各学期における週・授業日数について（比較のため長期休業の日数は同じとしている）

3学期制の場合

月	1学期																2学期												3学期									総授業日数								
	4				5				6				7				8		9				10				11				12				1				2			3				
週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	
授業日	2	5	5	4	2	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	1	2	5	5	5	3	5	5	4	5	5	4	5	4	5	5	4	5	5	5	4	4	5	5	5	4	5	4	5	5	2
週	16																18												11									199								
授業日数	69																81												49																	
	学期末事務																												学期末事務																	

2学期制の場合

月	前期																							後期												総授業日数											
	4				5				6				7				8		9				10				11				12				1			2			3						
週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45		
授業日	2	5	5	4	2	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	1	2	5	5	5	3	5	5	4	5	5	4	5	4	5	5	4	5	5	5	4	4	5	5	5	4	5	4	5	5	2	
週	23																							22												199											
授業日数	99																							100																							
	学期末事務																																			学期末事務											

1 教育課程編成等に関して

(1) 新学習指導要領の改訂のポイントである「カリキュラム・マネジメントの確立」のために、教科横断的な学習の充実が求められている。そのためには、長期的な学習計画の下で日々の教育活動を展開する必要があり、各学期22～23週にすることにより改訂の趣旨を生かした計画を立てることができる。

(2) 前・後期ともに22～23週という長期的な視野に立って各教科の指導が可能となり、児童生徒の成長もじっくり捉えることができる。これまでで

上に子供たちの学習の成果を的確に捉え、評価の結果を教師の指導改善につなげることができる（指導と評価の一体化）。

- (3) 特に週1単位時間の教科（小学校：道徳・外国語活動、中学校：道徳、音楽、美術、技術・家庭）に関しては、2学期制を導入することで学習の成果を確実に捉えることができるようになる。
- (4) 総合的な学習の時間など、問題解決型の学習にじっくり取り組むことが可能となる。
- (5) 前期及び後期ともに学期末事務整理期間を除くと約20週を確保でき、各種行事（遠足・宿泊的、体育的、文化的など）を長期的な視野で計画することが可能となる。
- (6) 前期・後期の中間に長期休業（夏休み・冬休み）が入り、休業中の課題に対する評価をそれぞれの学期に適切に反映することができる。

2 生徒指導・教育相談等に関して

- (1) 1年間を見通した中で計画的に定期的な教育相談などを設定することにより、充実した相談体制の確立が図られる。

例：年度初めの家庭訪問（戸口訪問・居住地確認訪問など）、夏季休業中に保護者面談、10～11月に教育相談

- (2) 長期休業前（7月・12月）に、これまでのような期末事務に携わる時間がなくなり、児童生徒と向き合う時間が確保できる。また、この時期に学校行事を入れることが可能となる。

3 その他

- (1) 教員が7月の期末事務（成績処理等）に携わる必要がなく、みなと祭の「よしこの塩竈」、中学校においては県中総体や吹奏楽コンクールへ向け、集中して練習を行うことができる。
- (2) 教員が12月の期末事務（成績処理等）に携わる必要がなく、中学校においては3年生の進路指導及び進路事務を効率的に行うことが可能となる。

4 2学期制実施に向けて配慮が必要な事項

- (1) 児童生徒活動で対外的な行事（弁論・英語暗唱・中体連新人地区大会等）に関して、周辺市町との調整が必要になる。
- (2) 通信票が年3回から2回になることから、保護者に対して丁寧な説明が必要になる。
- (3) 夏季休業と秋季休業及び前期・後期の期間を定めるため、学校管理規則の改定が必要になる。

小学校 外国語（英語）の教科化

1 目標

(1) 外国語

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(2) 外国語活動

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(3) [参考] 外国語（中学校）

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

2 時数

新		旧	
外国語活動	3年 35時間		
外国語活動	4年 35時間		
外国語	5年 70時間	外国語活動	5年 35時間
外国語	6年 70時間	外国語活動	6年 35時間

※ 市内の上記以外の学年では、「創意」の時間で年間10時間程度、外国語に慣れる活動を行ってきた。

3 小中一貫教育における乗り入れ授業

学年	1・2年	3・4年	5・6年
教科等	創意	外国語活動	外国語
テキスト		副読本 レッツ・トライ	教科書 ニューホライズン
指導者	担任 ALT	担任 ALT	担任 <u>中学校外国語教員</u> (ALT)

4 教科化になり

- ・ 読むこと：単語や文章を絵と一緒に提示し、読む学習が加わっている。
- ・ 書くこと：単語を大文字や小文字の活字体で書く学習が加わっている。

小・中学校 特別の教科 道徳

1 目標

(1) 小学校

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

(2) 中学校

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

2 改善のポイント

発達段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」への転換を図る。

※「考える道徳」・・・主体的に自分との関わりで考えることで、自分の考え方、感じ方を明確にすること

※「議論する道徳」・・・多様な考え方、感じ方に出会い、交流することで、自分の考え方、感じ方をより明確にすること

3 時数（教科化になっても変更なし）

小学1年：34時間／年、小学2～6年：35時間、中学1～3年：35時間

4 授業の実際

- (1) 授業 塩竈市立玉川中学校 3年4組（教諭 草刈 誠）
- (2) 主題名 自分で判断し、行動すること「A-(1)自主、自律、自由と責任」
- (3) ねらい 自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任を持つとする道徳的実践意欲を育てる。
- (4) 教材名 「スイッチ」（あらすじ：卓球の強豪校に進学した絵里はキャプテンになる。県大会の前に顧問が入院。絵里は練習に仕方に悩む。）



「スイッチ切り替えよう！」と言った絵里の中には、どのような心があったと思いますか。



【終末「自己の生き方」について考える】

プログラミング教育

1 新学習指導要領

【小学校】総則

児童がプログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けるための学習活動の充実を図ること

【中学校】技術分野

生活や社会における問題を、ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによって解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。(情報通信ネットワークの構成と、情報を利用するための基本的な仕組みを理解し、安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができること。以下略)

2 プログラミング的思考とは

(小学校プログラミング教育の手引(第二版)H30.11文科省より)

自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力。

3 小学校段階のプログラミングに関する学習活動の分類(その他 C~Fは省略)

A 学習指導要領に例示されている単元等で実施するもの

(例) プログラミングを通して、正多角形の意味を基に正多角形をかく場面(算数 第5学年)

B 学習指導要領に例示されていないが、学習指導要領に示される各教科等の内容を指導する中で実施するもの

(例) 様々なリズム・パターンを組み合わせる音楽をつくることをプログラミングを通して学習する場面(音楽 第3学年~第6学年)

4 実践例(塩竈市立月見ヶ丘小学校 6年 理科「電気と私たちの暮らし」教諭 渡邊 敏博)

(1) 小単元名「プログラミングで信号機を動かそう」……本時「押しボタン式の信号機を作ろう」

(2) 学習の様子

- ・ソフト : アーテックスタディーノ
- ・ロボット : アーテックロボ
- ・試行錯誤を繰り返し「順次」「反復」「分岐」の考え方を体験的に知る。
- ・①青点灯→②青点減→③赤点灯

